



【講習の評価(自らを振り返る)】

1 講習全体の企画・進管理

- (1) 目的・目標の明確化
 - ・ 講習の到達目標を受講者にしっかり伝えられたか
- (2) プログラム構成・流れ
 - ・ 内容の優先度を踏まえた流れがスムーズだったか
 - ・ 過不足なく必要なカリキュラムが含まれていたか
- (3) 時間配分・講習進行
 - ・ 各セッションで時間超過や不足がなかったか
 - ・ 余裕をもって質疑応答や実技練習の時間を確保できたか

2 指導内容・教え方

- (1) 分かりやすい言葉づかい・説明
 - ・ 難しい専門用語や理論ばかりでなく、図解や事例を示して分かりやすく解説できたか
 - ・ 受講者の反応を見ながら、理解度に応じて補足説明を行ったか



【講習の評価(自らを振り返る)】

(2) 実技デモンストレーションの質

- ・ 胸骨圧迫や人工呼吸の方法、AED装着の手順など、正確でお手本になるデモができたか
- ・ 受講者が混乱しないように、一連の手技を区切って説明し、復習もしやすい指導を行ったか

(3) 受講者のレベルに合わせた指導

- ・ 初心者向け講習なのか、経験者向け講習なのか、対象者によって指導内容を調整したか
- ・ 受講者ごとの理解度や習熟度の差に配慮し、フォローアップを行ったか

3 受講者とのコミュニケーション

(1) 双方向性の確保

- ・ 講師の一方的な説明だけでなく、受講者へ問い掛けや意見を求める場面を作ったか



【講習の評価(自らを振り返る)】

(2) フィードバック・修正指導の方法

- ・ 胸骨圧迫の深さやリズムなど、実技のチェックポイントを的確にフィードバックできたか
- ・ 間違いやすい点を指摘するだけでなく、正しい動作につなげる具体的なアドバイスを行えたか

(3) 受講者のモチベーション維持

- ・ 受講者の頑張りや上達度を適度に褒め、やる気を引き出したか
- ・ 疲れが見えたときに適度に休憩を挟んだり、進行を調整したか

4 実技の練習環境・安全管理

(1) 資器材の準備と使い方

- ・ 訓練人形やAEDトレーナーなど、必要物品を十分に用意していたか
- ・ 予備電池や替えの電極パッドなどを用意していたか

(2) 衛生管理・感染予防

- ・ 受講者に対して、手指消毒や手洗いなどを周知できたか
- ・ 器材の消毒や丁寧な取扱いなどを周知できたか



【講習の評価(自らを振り返る)】

(3) 実技エリアの安全確保

- ・ 十分なスペースの確保や障害物の移動など、転倒やけがのリスクを減らすよう配慮できたか
- ・ 講習に集中できる環境(証明、換気、騒音対策等)を整えていたか

5 受講者からの学び・満足度の把握

(1) 質疑応答の対応

- ・ 受講者からの質問に丁寧かつ的確に答え、分からないことは後日回答するなどのフォローを行ったか
- ・ 質問しやすい雰囲気をつくれていたか

(2) アンケート・反応の収集

- ・ アンケートを実施するなど、内容や指導方法への評価を確認したか
- ・ 講習中の受講者の様子(理解度、集中度、表情等)を観察し、改善点を見出したか

(3) 理解度の検証

- ・ 実技テストや簡易チェックシートなどを使い、受講者がどこまで理解・習得できたか。また、不十分な点があれば、その場で補足できたか



【講習の評価(自らを振り返る)】

6 自己評価と次回への改善

(1) 講師の準備・知識量

- ・ 最新のガイドラインに基づいた指導内容を提供できたか
- ・ 不明点や疑問がでた際に即時に説明できるよう、事前に十分な情報収集や確認を行っていたか

(2) 指導方法・プレゼンスキル

- ・ 声の大きさ、話す速度、受講者とのアイコンタクトなど、プレゼンテーションスキルを適切に使えたか
- ・ 「説明→デモ→練習→確認」といった段階的な教え方が分かりやすかったか

(3) 継続的なスキルアップの計画

- ・ 講習後に自己評価を行い、足りなかった点や改善が必要な部分を明確にできたか
- ・ 次回の講習に向けて講習計画を改善できたか



【講習の評価(自らを振り返る)】

7 まとめ

応急手当普及員が救命講習を実施した後は、講習前の計画・講習時の進行・受講者への対応・講師自身の指導方法まで、包括的に振り返ることが大切です。

「受講者の理解度と満足度の向上」「講習の安全性と効率の確保」という2つの視点を軸に、次回の指導内容や進め方をブラッシュアップしていきましょう。継続的に自己評価と改善を重ねることで、より質の高い救命講習を実施できるようになります。



【受講者からのフィードバック】

フィードバックの収集
(口頭、アンケート、ディスカッション等)

フィードバックの設問
(講習内容の理解度、講師の説明・進行について、実技練習の時間・環境等)

フィードバック分析と活用
(定量的な分析、定性的な分析、分析結果を踏まえた改善策等)

フィードバックを受ける際の注意点
(否定的な意見(改善へのヒントとなる)への対応、講師間での共有)



救命講習開催のポイント

3. 講習の評価と改善 (講習内容や指導方法の改善)

【講習内容や指導方法の改善】

講習内容の改善

(学習目標の再確認・再設定、優先順位の見直し、最新ガイドラインの反映、日常生活に即した具体例の追加、進行計画の見直し等)

講習方法の改善

(多様な学習スタイルへの対応、段階的な指導、シナリオ訓練の強化等)

教材・器材の充実

(教材の分かりやすさ、適切な数の器材の準備、衛生管理・安全管理の徹底等)

講習スキルの向上

(知識のアップデート、プレゼンテーション・ファシリテーション力の強化、コミュニケーション力の向上等)



【次回の講習に向けた検討】

カリキュラム構成の見直し

- ・ 優先度に応じた内容配分
- ・ 最新ガイドライン・知識の反映
- ・ 受講者の声を生かした追加項目

指導方法の改善・工夫

- ・ 実技練習の時間配分
 - ・ シナリオ訓練
- ・ 多様な学習方法の組合せ
 - ・ 教材のアップデート



【手続き】

1 事業所普及員のみ、器材貸出あり

- (1) 事業所(講習場所)所在地を管轄する消防署(分署)の市民指導担当への連絡

<https://www.city.kyoto.lg.jp/shobo/page/0000159860.html>

- (2) 申請書類

- ・ 講習実施計画表
- ・ 救命講習申込書(LINEの場合は不要)
- ・ 貸出申請書
- ・ 京都市暴力団排除条例に係る誓約書
- ・ 借用書(仮受け時に提出)

<https://www.city.kyoto.lg.jp/shobo/page/0000164785.html>

- (3) 消防署(分署)から受け取るもの

- ・ LINE申込用QRコード(参加QR、修了QR)
- ・ 修了証(LINE申込み以外)



【手続き】

2 事業所普及員のみ、器材貸出なし

- (1) 事業所(講習場所)所在地を管轄する消防署(分署)の市民指導担当への連絡

<https://www.city.kyoto.lg.jp/shobo/page/0000159860.html>

- (2) 申請書類

- ・ 講習実施計画表
- ・ 救命講習申込書(LINEの場合は不要)

<https://www.city.kyoto.lg.jp/shobo/page/0000164785.html>

- (3) 消防署(分署)から受け取るもの

- ・ LINE申込用QRコード(参加QR、修了QR)
- ・ 修了証(LINE申込み以外)



救命講習開催のポイント

3. 講習の評価と改善 (その他手続き)

【手続き】

3 事業所普及員と消防職員が共同で実施

- (1) 事業所(講習場所)所在地を管轄する消防署(分署)の市民指導担当への連絡

<https://www.city.kyoto.lg.jp/shobo/page/0000159860.html>

- (2) 申請書類

- ・ 救命講習申込書(LINEの場合は不要)

<https://www.city.kyoto.lg.jp/shobo/page/0000164785.html>